



名古屋市立大学 SDGs活動レポート (2023年度版)



13 気候変動に
具体的な対策を



SDGs活動紹介

ホーム > SDGs活動紹介 > JST/JICA 国際科学技術共同研究推進事業(SATREPS)ブータンにおける組積造建築の地震リスク評価と減災技術の開発

全画面プリント

本文プリント

SDGs活動紹介

JST/JICA 国際科学技術共同研究推進事業(SATREPS)ブ ータンにおける組積造建築の地震リスク評価と減災技 術の開発



研究の概要	<p>地震リスク評価・耐震化技術の開発と普及で、将来の災害に備える</p> <p>ブータンでは、首都をはじめとする一部の市街地で地上5階建てまでの鉄筋コンクリート建築と、2階建てまでの煉瓦建築が多くみられるほか、ほとんどの民家と公共施設が版築*1あるいは割石*2積みで建てられている。プロジェクトでは、ブータンにおける地震研究により得られた地震ハザード評価の結果を加味したブータンの伝統建築である組積造建築の耐震化指針と減災教育マニュアルを作成し、技術者・施工者向けの講習や住民教育を通して、地震に強い地域づくりを支援する。</p> <p>*1 版築…壁となる部分に両側から板などで枠を作り、その中に建材を詰めて突き固める工法のこと。 *2 割石…石材を任意に割ったもの。</p> <p>ブータンの減災を実現する技術の開発で、安心安全な地域づくりに貢献</p> <p>実大実験に基づく耐震化指針と減災教育マニュアルの運用を、ブータンの災害管理行政に提案し普及させることで国民の防災意識の向上に貢献する。このプロジェクトで開発される技術は、従来の土や石を建築材料とした脆弱な構造の住宅が崩壊することによって発生する災害を克服するモデルとして、他の国々にも普及を目指す。</p>
	国際共同研究期間 2017年4月27日から2023年4月26日まで
研究代表者 芸術工学研究科 教授 青木 孝義 内務文化省文化局 局長 ナクツォ ドルジ	
関連URL 科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム 研究プロジェクトWEBサイト	
その他 2023年10月13日から10月31日には、成果報告展として、展示・体験ワークショップ「ブータンの幸せのために！」を開催しました。 期間中には、ブータンにおける伝統建築の耐震化を支援するプロジェクトの成果である仮想現実(VR)を使用した減災教育体験も行われました。	<p>展示・体験ワークショップ「ブータンの幸せのために！」</p>

スマートフォン表示

PC表示

桜山（川澄）キャンパス

〒467-8601
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

医学部	医学研究科
看護学研究科	

交通アクセス

[キャンパスマップ](#)

滝子(山の畑)キャンバス

〒467-8501
名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1

経済学部	経済学研究科
人文社会学部	人間文化研究科
総合生命理学部	理学研究科
データサイエンス学部	データサイエンス研究科

交通アクセス

[キャンパスマップ](#)

田辺通キャンバス

〒467-8603
名古屋市瑞穂区田辺通3-1

薬学部	薬学研究科
交通アクセス	キャンパスマップ

交通アクセス

[キャンパスマップ](#)

北千種キャンバス

〒464-0083
名古屋市千種区北千種2-1-10

芸術工学部	芸術工学研究科
交通アクセス	キャンパスマップ

交通アクセス

[キャンパスマップ](#)

[サイトポリシー](#) [プライバシーポリシー](#) [ウェブアクセシビリティ](#) [学内組織リンク](#) [学外関連リンク](#) [このサイトについて](#)

Copyright(C) NAGOYA CITY UNIVERSITY. All rights reserved.

環境マネジメントシステム

組織や事業者が、その運営や経営の中で自主的に環境保全に関する取り組みを進めるにあたり、環境に関する方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくことを「環境マネジメント」といって、このための事業所内の体制・手続き等の仕組みを「環境マネジメントシステム」といいます。

本学では、環境憲章で定めた基本方針の実現のために、基本方針の各項目について3年間の計画目標(アクションプラン)及び具体的な取組目標を定めています。

右図に示すP D C Aサイクルを名古屋市立大学の環境マネジメントシステムの体系と定め、同システムの継続的改善により、さらなる環境への取り組みを進めています。

これらの計画達成を通じて、国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)に積極的に取り組んでいます。



アクションプランの主な取組状況

1. 教育への取組み



全学共通の教養教育科目においては、全学部生が履修できるよう、教養教育の環境関連の科目23科目を開講し、環境問題への理解と関心を深めるようにしています。

学部専門教育科目においては、授業科目「ESD概論」では、気候変動やごみ問題をはじめとする環境問題が、自らの生活と密接に結びついてることに気づき、どうしたら持続可能な地球環境の保全に取り組めるのかを身近な諸課題に結び付けて具体的に検討し、実行しています。

また、大学院教育においても、環境問題について様々な学問的手法による分析、現地調査などによる研究を取り入れた授業科目が提供されています。「建築設備設計特論」では、日本を含む世界のエネルギー消費事情と政策動向を概観し、地球環境と建築とのかかわりを知ることで、未来を担う一人ひとりがその責務を認知し行動

教育区分	授業科目名（令和4年度開講実績）
教養教育 (23科目)	ESDと地域の環境、環境行動学と情報リテラシー、環境と社会・制度・政治・経済、環境科学、動物とヒトの進化多様性、都市と自然、行動生態学、植物とバイオテクノロジー、エネルギーのサイエンス、地球史入門、地域生態学、社会と医学、教養として知っておきたい様々な病気、次世代エネルギーワークショップ、植物の多様性と環境、健康・スポーツ科学、ヘルシーライフ、人と法と医療、SDGsを考える：医療系、SDGsを考える：自然系、SDGsを考える：数理情報系、SDGsを考える：社会科学系、持続可能な社会と私たち、人間の行動・心理と建築
専門教育 (24科目)	データサイエンス入門、行動科学、社会医学講義（予防医学基礎）、基礎自主研修（環境労働衛生学分野選択）、社会医学講義（予防医学応用）、MD-PhD前期コース、衛生化学、環境衛生学、公衆衛生学Ⅰ、Ⅱ、環境経済学Ⅱ、環境資源経済論、ESD入門、ESD概論、環境教育論、保育内容演習（環境）、ESD演習（海外スタディツア）、文系のための環境理学入門、ランドスケープ論、建築環境心理論、建築環境工学、建築環境計画、グローバルヘルス、小児看護学概論

に移すことをを目指しており、この授業を通して、建築設計のなかで実現できる省エネ・環境負荷手法について理解でき、建築設計者として取り組める環境配慮策を身につけます。

大学院教育 (19科目)

予防・社会医学講義Ⅰ、環境労働衛生学（講義・演習・実験実習）、環境労働安全管理学概論Ⅰ・Ⅱ（Introduction of environmental health and safety management I・II）、環境健康安全学課題解決アクティブラーニング（Environmental and Phamaco-medical Science Active Learning）、社会医学系基礎、Basic Medical Science 1・2、化学物質と環境、薬用資源学特論、衛生化学特論、レギュラトリーサイエンス、グリーンケミストリー、環境資源経済論、ESD研究A、ランドスケープ特論、建築環境心理特論、建築環境計画特論、建築設備設計特論、成育保健看護学、理論看護学

2. 学生活動への支援



学友会や各キャンパスの自治会の企画により、4キャンパスにおいて「開学記念日一斉清掃」が実施され、課外活動団体や有志の学生が参加しました。

また、国際的な共同研究・支援活動として、世界の食糧生産と分配の改善と生活向上や生物多様性を目的とした国連食糧農業機関（FAO）でのインターンシップに関する協定を締結しています。

3. 生物多様性の保全に関する学術研究の推進



理学研究科では、陸の豊かさを守るために（SDGs目標15）、名古屋周辺に生息するバッタ類や貝類などの標本を収集するとともに、絶滅のおそれのあるハヤブサ類についての研究成果を国際共著論文にまとめて公表しました。また、海の豊かさを守るために（SDGs目標14）、インドネシアやタイの魚類に関する標本収集とDNA解析も行いました。

さらに、理学研究科教員が名古屋市内の生物多様性保全活動に関わる市民団体（なごや生物多様性保全活動協議会）と連携協働し、名古屋圏に固有の植物の遺伝的位置づけを解明する共同研究を実施しました。これらの研究成果は、名古屋市環境局なごや生物多様性センターと共に「なごや生物多様性シンポジウム 2024～みんなでつなごう生物多様性の未来～」で発表し、地域還元しました。

また、環境分野に係る外部研究資金獲得に向けて公募情報を発信するなど、研究支援を行いました。

4. 地域社会等との連携



【生涯学習機会の提供等】

本学 SDGs センターは令和 5 年 12 月 20 日に、「～ともに考える教育の未来～」と題したシンポジウムや、Human Feedback プロジェクト 2024 として講演会「動物とヒトとの共存-そのために私たちに何が出来るか？」を「世界野生生物の日」である令和 6 年 3 月 3 日に、開催しました。

また、理学研究科附属生物多様性研究センターは、名古屋市環境局なごや生物多様性センターとの共催のもと、本学 SDGs センターの協力イベントである「なごや生物多様性シンポジウム 2024～みんなでつなごう生物多様性の未来～」を、令和 6 年 3 月 24 日に実施しました。

【環境に関する各種イベントへの参加等】

- 令和 5 年 9 月 22 日～24 日 「なごや生きもの一斉調査 2023 ハエトリグモ編」

理学研究科附属生物多様性研究センターのスタッフ 2 名が調査の地点リーダーを務めるとともに、理学研究科・総合生命理学部の学生 7 名が一般調査員として参加しました。

- 令和 5 年 10 月 28 日 「なごや生物多様性センターまつり 2023」

理学研究科附属生物多様性研究センターが、「なごやのバッタ類の遺伝的多様性」をテーマとしたブースを市民団体と共にで出展し、名古屋市内に生息するバッタ類の絶滅危険性について多数の实物標本とともに紹介しました。

- 令和 5 年 11 月 10 日 名古屋市消費生活フェア「なごやエシカルフェア☆2023」

名古屋市スポーツ市民局の消費者啓発事業に、人文社会学部の学生がゼミ活動として連携協力し、レンゴー株式会社豊橋工場との連携によって作成した段ボール製のリサイクルボックスの展示等を行いました。

【SDGs に関するイベントの参加・開催】

SDGs に関する各種イベントにパネルを展示し、環境を含めた本学の SDGs に関する取り組みを紹介しました。

- 令和 5 年 10 月 5 日～7 日 「SDGs AICHI EXPO 2023」

- 令和 5 年 8 月 23 日 「SDGs 将来世代創造フォーラム 2023」

- 令和 5 年 8 月 27 日 「中日 SDGs フェア」

- 令和 5 年 11 月 2 日 「SDGs まつり」

中日 SDGs フェアの様子



SDGs 将来世代創造フォーラム 2023 の様子

